

テニスのシングルスゲームにおいて 流れを掴む局面でのプレーとは

-ラファエルナダル対錦織圭(全豪オープンテニス2014)を考察する

○宮地弘太郎(大阪体育大学) 道上静香(滋賀大学)

細木祐子(園田学園女子大学) 梅林薫(大阪体育大学)

1.はじめに

テニスゲームにおいて、ポイントの8割が相手のミスによるといわれており、相手よりも1球多く返球することがゲームに勝利する基本的な考え方である。又、技術レベルが上がれば上がるほど、相手との駆け引きが重要であり、いかに相手にミスさせるかが戦術の基本となり、いづくにどのようなボールを配球出来るかが勝敗を左右する要因であると筆者は考える。これまでのゲーム分析の殆どはカテゴリー別に見るショットの頻度、ラリー数、サービス、リターン成功数であり、実際のゲームの流れの中での重要な要因を抽出し明らかにする物は少ない。

流れを掴む局面でのプレー

質的 インタビュー

量的

ゲーム分析

指導法を体系化する

2.方法

対象『指導者Aの選定』現役時代オリンピック出場歴、デビスカップ日本代表歴、が有り、指導者としても、日本代表選手輩出(フェドカップ日本代表、ユニバーアード日本代表)、日本代表のコーチ、監督経験者、大学選手権優勝経験者(団体、個人)とした。『指導者Bの選定』現役時代日本チャンピオンになったことがあり、現在日本のトップ選手を輩出し、指導する指導者とした。インタビューは、指導者と1対1の半構造化面接で行った。場所は、対象者の勤務先で静かな応接室内で行った。期間は平成26年9月27日の午後12時半から約30分から60分であった。インタビュー内容は以下の3つである。

- 1)シングルスゲームで流れを掴む局面とはどんな状況ですか？
- 2)その局面では、どのようなプレーをする(させるように)しますか？
- 3)シングルスゲームで常に考えている事(考えさせていること)どんなことですか。事前に研究の主旨は、テニスの指導現場及び、研究の目的である事を伝え、本人のプライバシーに関わる個人名などは一切公表しない、いずれの質問に対しても回答を拒否できる事を伝えた上で、インタビューに同意を得た。又、インタビューの内容は、ICレコーダーに記録し、音声データを逐語記録としたものを解析データとし、SCATを用いて分析を試みた。SCATは、マトリクスの中にセグメント化したデータを記述し、そのそれぞれに、<1>テキスト・データ内の注目すべき語句を抽出する。<2>上記の抽出した語句をテキスト外の語句に変換する。<3>変換した語句を説明するようなテキスト外の概念に変換する。<4>前後や全体の文脈を考慮し、浮かび上がるテーマ・構成概念を記述する。<5>テーマ・構成概念を紡いで、ストーリーラインと理論記述を作成する。メンバーチェックの実施(データの妥当性、信頼性を確認するため)。フリック2002.調査内容のデータと、暫定的な解釈をデータ提供者に持ってゆき、その分析が現実的に妥当なものかを訪ねる事である。

3.結果と考察

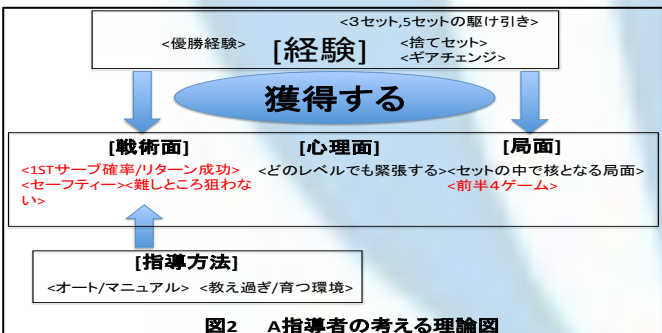


図2 A指導者の考える理論図

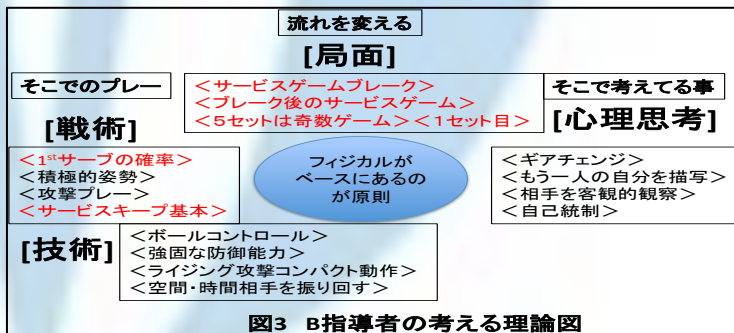


図3 B指導者の考える理論図

	1STサーブ確率	リターン返球率
NADAL	65.3%	80%
NISHIKORI	61.2%	66%

$\chi^2=1.603, df1 .n.s$

	クロス/センター方向	ストレート方向
NADAL	86%	15.3%
NISHIKORI	80%	20.4%

$\chi^2=0.01, df1 .n.s$

	リターン返球率
NADAL	80%
NISHIKORI	66%

$\chi^2=0.178, df1 .n.s$

4.まとめ

流れを変える局面でのプレーに関してはじまりの技術であるサーブ(1st)、リターンでは60-80%の正確性、ストロークの打球コースはクロス、センター方向への指導を実践することにより確率の高いプレーを行う事が出来ると思われる